

## 令和3年度 事業報告



社会福祉法人 美里会

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| ① 障害者支援施設        | みさと（西館・東館）        |
| ② 障害者支援施設        | みさとの森             |
| ③ 障害者支援施設        | ユーアイハウスおがの        |
| ④ 障害福祉サービス事業所    | ワークみさと            |
| ⑤ 障害者就業・生活支援センター | 障害者就業・生活支援センターこだま |
| ⑥ グループホーム        | コスモスハイツ           |
| ⑦ 障害福祉サービス事業所    | コスモスの里            |
| ⑧ 障害者生活支援センター    | 障害者生活支援センターみさと    |
| ⑨ 介護老人福祉施設       | 美里敬愛ホーム           |
| ⑩ 通所介護事業所        | デイサービスセンター「けいあい」  |
| ⑪ 訪問介護事業所        | ヘルパーステーション「けいあい」  |
| ⑫ 居宅介護支援事業所      | 居宅介護支援センター「けいあい」  |
| ⑬ フードクリエイト事業     | 栄養課・調理課           |
| ⑭ 法人事務局          | 総務課               |
| ⑮ 介護員養成研修事業      | 法人研修センター          |

令和3年度事業報告 みさと

施設運営方針

1. 新しい生活様式に対応した生活支援サービスを実施し、生活の質の維持、向上を目指します。
2. 職員の人材育成、人材定着を目指します。
3. 保護者との交流の機会を増やし、施設支援の理解を推進します。
4. 安定した施設経営を目指します。

重点実施事項	備考 (予算・頻度等)	実施状況・報告	結果 (執行額・頻度等)
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択性的日帰り外出を計画し実施します。(自宅訪問、季節の花巡り、ハイキング、散策、ドライブなど)</li> <li>・入浴回数を週4回から週5回実施します。</li> <li>・西館、東館の日中活動を一体化し、利用者の特性に合った更なる活動を実施します。</li> <li>・キッチンカーなど利用した屋外イベントを実施します。(感謝祭代替イベント)</li> <li>・季節ごとの食事会を実施します。</li> </ul>	<p>通年 200万円</p> <p>5月 50万円</p> <p>年6回 25万円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染の再拡大から未実施。次年度継続とする。代替え余暇として少人数での買い物、外出などを実施。</li> <li>・東館男性フロアでは、障害特性と支援体制上、現状の週4回の現状維持、東館女性フロアでは、5月中旬から機械浴、一般浴共に週5回に増やす事ができた。西館男性フロアでは週6回、女性フロアは一般浴週5回、機械浴週3回の提供ができた。</li> <li>・感染症の課題があり、日中活動の一体化については見送った。農産プロジェクト(農福事業)の一環として鉢植えブルーベリーの育成を合同活動として実施している。</li> <li>・6月にキッチンカーフェス(キッチンカー4台と自前出店)を実施した。</li> <li>・5月、8月、9月、11月、2月(食事会)5回実施 7月に土用丑の日、10月に味覚祭りを開催することができた。</li> </ul>	<p>一部実施できず。 他フロアは回数増加</p>
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が障がい・高齢者の体験型研修を通じて不適切ケア防止に目を向け、相手の立場になって考えられる人材を育成します。</li> <li>・研修センターと連携し、人材育成担当者による新任職員へOJTを活用した育成及び人材定着を実施します。</li> <li>・中堅職員へ外部研修(スーパーバイザー)の受講を実施します。</li> </ul>	<p>年2回</p> <p>随時</p> <p>年1回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止委員会を毎月実施。7月～11月にかけて全職員対象に体験研修実施した。車椅子を使用し、体感、自分が感じる事を話し合った。下期については虐待映像を活用し、どの場面が虐待に当たるのかを書面を通して虐待防止に向け意識改革を図った。</li> <li>・新任職員に対し入職後1ヶ月目から面談し、以降、随時個別面談を実施。研修センターと情報共有し、相談できる環境作りを行い、特に先輩職員が新任職員に対して意識を高めるよう取り組んだ。</li> <li>・埼玉県障害分野の協会が開催する、リーダーが求められる危機管理や人材育成、離職者の原因究明の必要性などの研修に参加。障害者施設部会の情報交換会に職員2名参加し、中堅職員のスキルアップを図った。</li> </ul>	<p>研修2回実施</p>
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の季節イベントすべてにおいて保護者に参加を呼びかけ、保護者と共にある施設運営を進めます。</li> <li>・美里会HPを活用し利用者の生活状況を掲載し、保護者の気持ち(知りたい、会いたい)に応えます。</li> </ul>	<p>年3回行事</p> <p>年4回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策から季節イベントでは保護者参加の呼びかけを見送った。</li> <li>・ホームページの活用企画までは至らなかったが、保護者からの要望であった利用者が元気に過ごしている写真の広報誌掲載に対して、全利用者を掲載しニーズに対応した。</li> </ul>	

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎サービスを実施し、生活介護利用者（日中のみ利用）の受入れを行います。</li> <li>・強度行動障害基礎研修修了者を増員し、個別重度加算の算定、増収を目指します。</li> <li>・新規短期入所利用者の利用を促進します。</li> </ul>	新規 7 名程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みさと西館は満床となったが、東館 2 床については生活介護（日中のみ利用）のニーズがなかった。</li> <li>・強度行動障害基礎研修修了者 8 名受講し修了。これにより、みさと東館では 10 月から 20 時までの勤務者を配置し、個別重度加算の算定を開始できた。</li> <li>・みさと西館では新規短期入所者 1 名、東館では新規日中一時利用者 1 名の受入れにとどまった。</li> </ul>	<p>生活介護 1 名受入れ</p> <p>新規登録(延べ数) 日中一時 3 名 短期入所 1 名</p>
5			<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナによるクラスターが発生。 2 月 27 日に日中のみを利用する利用者が陽性であった連絡（2/24PCR 受検）を受け、以降、短期間で利用者 41 名、職員 19 名が感染した。</li> </ul> <p>施設内でのゾーニングを行うが、居室内での静養が難しく、食堂と支援室を除くすべてのフロアを感染区域としゾーニング対応を図った。</p> <p>入院治療が必要な重症化する方は発生せず、3/16 には全利用者療養解除となった。</p> <p>外部利用者からの発生であるため、利用前の健康確認の強化、家庭状況など詳細情報の提供協力などを求め、再発防止に努めます。</p>	<p>利用者 41 名 職員 19 名が罹患</p>

令和3年度事業報告 みさとの森

施設運営方針

1. 待機者の利用ニーズに応えられる安定した経営を目指します。
2. 農産事業の拡大の準備と新しい自主製品の安定供給を利用者と共に取り組みます。
3. 感染症や事故防止、防犯防災対策に取り組みます。
4. 職員の定着支援体制を充実させます。

	重点実施事項	備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みさとの森のサービスを必要とされる方を迅速に受け入れ、空床期間を減少させ安定経営を目指します。</li> <li>・新規短期入所利用者の利用を促進します。</li> </ul>	通年  新規6名程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3名の退所(逝去2名、他施設異動1名)があり、施設入所において入所最大4名の空床があったが、年間通じて新規短期入所6名を受け入れ、空床期間は短くできた。</li> <li>・新規登録者7名 (利用相談総数12件) 川口市1、川越市1、寄居町1、上里町1、本庄市1、上尾市2</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんにやくライスの安定製造を目的とした設備導入と製造体制を強化し、法人内使用率100%を目指します。</li> <li>・新たな畑に梨栽培用棚を設置するとともに作業体制を増員し、梨事業の拡大を図ります。また、盗難防止対策に努めます。</li> </ul>	設備20万円  設備400万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務用フードプロセッサ、作業台を整備した。年度当初は週100袋の納品予定であったが、利用者のこんにやくライス需要が増加し140袋必要になった。現体制では生産量が不足している状態のため、生産スケジュールや工程を見直していく。</li> <li>・新梨園栽培棚3月中旬に完成。 受粉の実施や好天もあり安定した収穫ができ、前年比売上120万増となった。 防犯センサーや定期見回りを実施し、機器や作物の盗難を防止できた。</li> </ul>	設備22万円  設備337万円
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨折事故0を目標に、事故発生の高リスク箇所への手摺整備や早朝夜間の職員配置体制を見直します。</li> <li>・感染症対策としてBCP(事業継続計画)の更新及び確認、物資の備蓄状況の確認を行い、有事に備えます。</li> <li>・施設運営の安全対策として、防犯研修を実施します。(警察署委託)</li> <li>・施設単位の一泊旅行から少人数単位の選択旅行とし、利用者個々のニーズに対応します。(感染対策と個別化支援の充実)</li> </ul>	設備35万円  物資55万円  年1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝勤務者を1名増員し、朝3名、夜4名体制から朝夜各4名体制へ変更したが、11月に2件の骨折事故が発生。体制の他、支援方法も含め再発防止を検討していく。</li> <li>・使い捨て衛生資材(エプロン2000枚・手袋3000枚・ヘアキャップ1600枚)を常時備蓄。職員2名の感染が確認されたが、利用者および職員への感染はせず、クラスターにはならなかった。</li> <li>・1月に児玉警察担当者2名により、不審者への対処法や危険回避について講義をみさとの森にて開催し職員が参加。</li> <li>・感染症防止、みさと西館クラスター応援対応により、日帰り旅行は未実施となった。3月に代替企画として、大道芸鑑賞及びキッチンカーでの飲食を実施した。</li> </ul>	衛生資材は県補助金にて購入  職員24名受講
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員育成担当者を配置し、働きやすい環境を構築します。</li> </ul>	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育成担当職員1名を配置。離職者0であった。 新任職員及び中途契約職員は6月より変則業務の実習を開始し、順調に業務習得ができた。</li> </ul>	

令和3年度事業報告 ユーアイハウスおがの

施設運営方針

1. 利用者の選択、意思決定の尊重と心身の状態に合った生活の実現に取り組みます。
2. 日中活動の可能性を広げられるよう取り組みを実施します。
3. 利用者の生活の質を踏まえた新型コロナウイルス対策基本方針を遂行します。
4. 職員の人材育成、定着に向けた体制を構築して行きます。

重点実施事項		備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービス担当者会議に当事者である利用者が出席し、意思決定支援を推進します。</li> <li>・ 利用者意見を取り入れた活動、イベント、余暇を利用者と共に計画・実施します。また、目標を共有し、達成状況や再設定を共に考え、次回活動計画に反映します。</li> </ul>	全利用者出席 月1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービス担当者会議へ利用者参加は定着。保護者参加はコロナ禍により電話や面会時に確認を行った。利用者の意思決定については、引き続き保護者参加も求め、個別性のある対応の推進に取り組みます。</li> <li>・ 月1回の自治会の意見を踏まえ行事や活動を進めた。今後、表現が不得意な方の意思確認について協議を重ねていきます。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日中活動において利用者の希望、職員の知識を活かし、あらゆる活動にチャレンジします。(農産、飼育、創作など)</li> <li>・ 日中活動を支援体制、地理的環境を踏まえた活動に再編し、利用者が参加したい活動を選択できる体制を構築します。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジョブ班(内職)の新規開拓はできなかったが、利用者の意見を踏まえ、調理活動を取入れた。また、生産活動を強化したことから収入増となり報奨金を増額することができた。</li> <li>・ 午前の選択活動は安定して週1回実施できた(R2年度は14回)。新たに午後の選択余暇活動を取り入れ、より個性に応じた活動が展開できた。</li> </ul>	全収入 48万円 経費 27万円 繰越金 4万円 全報奨金 17万円 (年3回支給)
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルスの利用者向け勉強会、職員向け研修会を行い、協力し合える生活習慣を目指します。また生活の質が損なわぬよう都度検証を行います。</li> <li>・ 新型コロナウイルス対策を取り入れた風水害、土砂災害等を想定した避難訓練を実施します。また、施設外避難を視野に入れ、小鹿野町と連携し町避難所、及びみさと本部等への避難手順を確立する。</li> </ul>	2か月に1回  年2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の外出や職員からの感染がないよう利用者向け勉強会と職員研修会を実施し感染症対策及び健康管理に努めた。利用者、保護者、職員の理解と協力の下、年間計画の余暇活動を予定通り実施することができた。</li> <li>・ 小鹿野町と共同避難所の開設及び避難訓練を実施し、有事の際の行動を確認した。今後も町指定避難所を利用した土砂災害と雪崩等を想定した共同訓練を年1回、また施設単独訓練も継続的に実施する。引き続き、障がい特性に合った避難先の環境について町と検証していく。</li> </ul>	共同訓練 12月 単独避難 4月
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新任職員の相談窓口(サポーター職員)を配置し、早期に問題解決や仕事を身に付けられるようにする。</li> <li>・ サービス管理責任者が利用者支援の把握と職員チーム作りを行う上での連携体制を再構築する。</li> </ul>	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新任職員への業務習得は計画的に進めることができた。R4年度も新任職員の個性に合わせサポーター職員を配置し効果的な育成と定着できる組織づくりを目指していく。</li> <li>・ サービス管理責任者との連携強化を目的として、支援会議結果の周知徹底と確実な実践、支援記録の見直しなどを行い、職員ネットワークの再構築を行った。</li> </ul>	

## 令和3年度事業報告 ワークみさと

### 施設運営方針

1. 利用者の多様な働き方ニーズに応え、安定した施設運営を目指します。
2. 農産・製造活動を強化し、地域とのつながりを高めていきます。
3. 新しい生活様式をとりいれながら、感染症対策の強化に取り組みます。

重点実施事項	備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の出勤管理についてタイムカードを導入し、利用者の働く意欲、工賃向上の意識が高まるよう支援します。</li> <li>・ 梨・ブルーベリーなど法人内農産物の加工製品の製造、販売を開始し、利用者の多様な就労を支援します。</li> <li>・ 感染症の影響により通所できない利用者に対して、在宅において就労継続できるよう電話連絡や訪問による支援を行います。</li> </ul>	<p>6月～</p> <p>設備 26万円</p> <p>7月～</p> <p>随時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイムカードは導入できたが、打刻忘れが多く、打刻データを基にする工賃支給手続きには至っていない。月額平均工賃は10,096円となり、昨年度より720円アップした。</li> <li>・ 切り干し大根、干し芋などの加工品を試作し、法人内職員への販売。また、みさとの森で収穫した梨やキウイを使用したジャム、ゼリーを試作した。今後は、こもだ農園での本格作業に移るため、4年度にこもだ農園厨房の改修を予定。</li> <li>・ 感染対策としての在宅支援の要望がなかったため実施せず。</li> </ul>	<p>7月～</p> <p>月額平均工賃 10,096円</p>
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野菜や加工製品などを出品できる地域情報を収集し、イベント販売、飲食店などへの販路を拡大します。</li> <li>・ 法人外就労、農福連携マッチング事業など地域と福祉事業所それぞれのニーズにあった取り組みに積極的に参加し、利用者の就労を目指します。</li> </ul>	<p>新規販路 2件</p> <p>随時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野菜の販路開拓により、キッチンカーや飲食店へ野菜を卸す事ができた。また、4月の飲食店イベントにて法人内授産品の販売と卸した野菜をつかったコラボメニュー企画などを進めることができた。</li> <li>・ コロナ禍のため、法人外での取り組みは積極的には行えなかった。就業・生活支援センター「こだま」の紹介により深谷市の高齢者施設で1名職場実習を行い、就職に繋げることができた。</li> </ul>	<p>新規販路 2件</p> <p>4月イベント参加</p>
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者、職員共に感染症対策の研修を実施し、正しい知識・方法で対応します。</li> <li>・ 利用者、保護者に対して、新型コロナウイルス対策の情報発信や必要な支援を行います。発生時には迅速に対応できるようシミュレーションを行います。</li> </ul>	<p>4月</p> <p>随時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月 利用者向け：手洗い方法のレクチャー</li> <li>・ 7月 職員向け：感染症対策研修（レッドゾーンでのガウン手袋等の着用について）</li> <li>・ 11月 職員向け：感染症対策研修（感染症に関する外部研修を受講した職員によるフィードバック）</li> <li>・ GW、夏期、冬期の休暇期間前に感染対策についての通知を配布し、利用者ならびに家族へ注意喚起を行った。また在宅における利用者の発熱時の対応やワクチン接種予約の方法など、家族に対して相談支援を行った。7月の職員会議にて、BCPの共有を行った。</li> </ul>	

令和3年度事業報告 障害者就業・生活支援センターこだま

施設運営方針

1. 就労を目指す障がい者の社会参加へ向けた包括的な支援を行ないます。
2. 障がい者就労を通じて、事業所と地域の連携の強化に努めます。
3. 新型コロナウイルス対策に基づいた業務遂行に取り組みます。

重点実施事項	備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職を目指す登録者に対して職場開拓や職場見学、実習等、一貫した就労支援を実施します。</li> <li>・新規就職者に対し、就労先や就労定着支援サービス事業所と連携し、職場定着を進めます。</li> <li>・当法人施設を利用する就労希望者に対して、個人面談や勉強会、職場見学会を行ない就労に繋がります。</li> <li>・就労前アセスメント（客観的評価・査定）をチームで検証し、適切なジョブマッチングを目指します。</li> <li>・障がい者雇用で当法人内就労している職員に対して、定期的な訪問や面談を実施し、継続的な就労定着の支援を行ないます。</li> </ul>	<p>就職 25件／年 実習 25件／年</p> <p>定着率 80%</p> <p>面談随時 勉強会年1回 就労者2名以上</p> <p>3ヶ月に1回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響は残っており、近隣地域の障害者求人が少ない状況が続いている。就労支援では、精神障害者の割合が多い状況である。 30件（身体4件、知的11件、精神15件） 36件（身体1件、知的11件、精神24件）</li> <li>・精神障害者の定着支援に力を注ぎ、目標を達成することができた。</li> <li>・対面による面談だけでなく、リモート面談も活用しながら就労意欲の向上に努めた。法人内の感染拡大により、勉強会は次年度に延期。 ワークみさと1名、コスモスの里1名の利用者が一般就労に結びついている。</li> <li>・面談によるヒアリングの他、ワークサンプル幕張版を活用した就労前のアセスメントにより客観的評価を出し、当事者と共に課題を検証している。</li> <li>・みさと東館4名、西館1名、フード4名、ホーム2名の法人内就労者に対し、配属先からの依頼や本人の希望により職場訪問または来所による面談を実施し、就労定着のための課題解決を当事者、配属先とともにいった。</li> </ul>	<p>就職 30件／年 実習 36件／年</p> <p>定着率 82.9%</p> <p>リモート2回他随時 勉強会中止 就労者2名</p> <p>新規登録時 その他必要に応じて</p> <p>実施者 11名 (各1～6回程度)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワーク、地域就労支援機関、県国労働関係機関、特別支援学校等との障がい者雇用に関する情報交換会に参加し、地域障害者雇用を推進します。</li> <li>・医療機関、各就労支援機関と連携し、新規登録を進めます。</li> </ul>	<p>3ヶ月に1回</p> <p>40名／年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本庄特別支援学校情報交換会：5回 企業情報の他、新卒就職者の状況と支援方針について検討を行った。 深谷市情報交換会：5回 深谷・熊谷地域の求人情報等について共有している。</li> <li>・就労移行支援事業所、精神科病院、ハローワーク等からの紹介等により、多くの登録依頼があった。</li> </ul>	<p>年10回参加 (2～3ヶ月1回)</p> <p>55名／年 (身5、知15、精35)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策に留意した面談や支援、オンラインでの会議等を推進します。</li> <li>・登録者の状況やニーズに即した少人数での在職者交流会を開催し、それぞれがもつ課題を共有し、解決に向け支援します。</li> </ul>	<p>随時</p> <p>年4回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Zoomを活用したリモート支援や会議を積極的に行った。感染拡大の予防対策とともに支援の効率化に繋がっている。</li> <li>・在職者を対象に、就労状況や問題や悩みを共有することで不安を解消できるよう支援した。 また、ピアサポーターの講話や、ワークショップにより登録者同士の交流を深めることができた。</li> </ul>	<p>年間27回実施</p> <p>年4回開催 延べ参加者24名 ピアサポーター4名</p>

令和3年度事業報告 コスモスハイツ

施設運営方針

1. 利用者個々の健康な暮らしと目標の自己実現を支援します。
2. 危機管理体制の整備を行い、安心した生活環境を提供します。
3. 知的障がい、精神障がいグループホームの業務体制を合一し、サービス強化を図ります。

重点実施事項		備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画をより充実させることを目的に、利用者本人を交えたカンファレンスを開催し、現状課題、満足度、要望を反映させた支援を実施します。</li> <li>・生活の質の向上を図ることを目的として、各個人と共に企画、選択する余暇活動を提供します（新しい生活様式の導入と習慣化を考慮した企画）。</li> <li>・高齢化に伴う健康面への支援として、定期健診の他、行政の検診等活用し、病気の早期発見、早期治療に繋がります。</li> </ul>	<p>1人年2回</p> <p>健診 年1回 町がん検診</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングを計画通りに実施。課題や満足度、要望等を共有し個別支援計画書へ反映させる事ができた。</li> <li>・テイクアウトや個人外出、事業所敷地内でのバーベキューなど、利用者の要望を感染対策が講じられる範囲内で余暇活動を提供する事ができた。 また、健康維持を目的とした地域散歩を企画し、4名の利用者が生活習慣として定着した。</li> <li>・定期健診を計画通り実施。行政の集団がん検診は感染対策上、実施を見送った。</li> </ul>	<p>年2回 前期：R3 10月 後期：R4 4月</p> <p>BBQ：R3 4月 他：希望により</p> <p>健診：年1回</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害、緊急時、感染症発生時等の危機管理体制の連絡、対応手順を整備し、定期的訓練を実施します。</li> <li>・利用者向けの災害時における身の守り方・行動等を事業所内に分かりやすく提示し、防災意識の向上を目指します。</li> </ul>	<p>年6回以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LINE WORKS※を活用し、自然災害を想定した連絡訓練を実施。マニュアル化された手順に沿って迅速な情報共有をする事が可能になった。</li> <li>・安全確保や避難方法等の災害時に取るべき適切な行動を訓練前の講和で伝え、理解していたから実施した。講和内容を踏まえてから訓練に臨む事で、災害時の適切な行動が訓練に反映され、防災意識の向上に繋がった。</li> </ul>	<p>連絡訓練 1回 火災想定 1回 水害想定 1回 地震想定 1回</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的グループホーム、精神グループホームの業務管理を一元化し、緊急時対応、支援スキルの共有、サービスの均一化など一層の支援の充実を図ります。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神グループホームの世話人と緊急時対応の迅速化を図るため、知的グループホーム同様にLINE WORKSを導入し、緊急時情報共有が迅速に図れるよう環境整備を行った。</li> <li>また、世話人向け、虐待防止権利擁護研修会を実施。業務内で不適切と感じる支援や対応について意見の交換や支援方法について話し合い、支援スキルの共有に努めた。</li> </ul>	<p>研修：年2回</p>

※ LINE WORKS とは、企業向けのクラウド型ビジネスチャットツール。スマートフォンやパソコンに対応し、LINE を踏襲したメッセージのやりとりだけでなく、個人や組織の予定管理、ファイル共有、メール、アドレス帳、アンケートなどが可能。

令和3年度事業報告 コスモスの里

施設運営方針

1. 利用者ニーズに応える環境を整えていきます。
2. 事業所が地域ニーズに応えるため、新規利用者を積極的に受け入れます。
3. 利用者やご家族に安心して頂ける感染症対策を実行します。

重点実施事項		備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内作業（内職）を充実させ、工賃アップを図り利用者の働く意欲を高めます。</li> <li>・送迎を希望する利用者ニーズに応え、送迎回数を増やします。</li> <li>・ご家族との交流を深め、連携を円滑にするためご家族相談会を年2回行います。新型コロナウイルス対策のため必要に応じてリモート相談も実施します。</li> </ul>	<p>平均工賃1万円</p> <p>土曜日送迎開始</p> <p>6月、12月 10家族以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内職契約を新たに1社と契約。月額平均工賃1万円以上を達成できた。</li> <li>・送迎車を7人乗りから9人乗りのハイエースに変更した。また、土曜日の送迎を10月から開始し、利用ニーズに対応できた。</li> <li>・前期は6月から電話にて家族相談を実施し、8月中旬に終了（7家族）。後期は12月から実施し、1月に終了（4家族が参加）。家族と利用状況や日常生活の不安等を聞き取り課題解決にあたった。</li> </ul>	<p>月額平均工賃 ¥10,070</p> <p>11家族が参加</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政機関、相談支援事業所、近隣の病院への訪問や電話連絡を積極的に行い、より多くの方が利用していただく事業所を目指します。</li> <li>・一人ひとりの生活に合わせ、短時間利用、短期間利用の受け入れも行います。</li> </ul>	<p>新規利用者 年間5人以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関からの紹介を含め、新規利用者、6月2名、7月1名、9月1名、10月2名、2月1名を受け入れた（男性4、女性3）。</li> <li>・精神障害程度、身体状態など本人と確認しながら1日の利用時間を決定。令和3年度新規利用者のうち、短時間利用（1日2時間以内）が4名、午後からの利用2名とし個々にあった利用方法を提供している。</li> </ul>	<p>新規利用者7名</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症に関する対策、方針、発生状況などの情報を随時、迅速に利用者、ご家族に提供し、安心して利用できる環境とします。</li> <li>また、利用者、職員共に参加できる研修会を開催し、感染知識を高めます。</li> </ul>	<p>研修年3回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月と1月に事業所で実施している感染症対策の説明通知を家族に配布。また、利用者及び職員には最新のコロナウイルス感染状況や対策について随時通知や説明を行い、感染防止意識の向上を図った。</li> </ul>	<p>年2回実施</p>

令和3年度事業報告 障害者生活支援センターみさと

施設運営方針

1. サービス等利用計画事業運営の適正化を図ります。  
(特定計画相談事業)
2. 精神障がい者の安心できる居場所となる活動、環境づくりを実施します。  
(地域活動支援センター事業)
3. 地域の各機関と連携を強化し、地域の精神障害者福祉の向上に努めます。  
(相談支援事業)

重点実施事項		備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
1	・ サービス計画作成、福祉サービス利用状況の評価が適切に遂行できるよう、担当者数に制限を設け、特定計画相談事業を適正に継続運営します。	一人 80 件	・ 新規の特定計画相談は障害者生活支援センターみさとで受けることで、情報管理、迅速性等など明らかに向上する場合を除き、事業所の紹介を行い、現在の登録者への質を維持している。また、他事業所との調整が難しい場合はセルフプランを選択していただいた。いずれの場合も、委託相談事業として他相談支援事業所と連携するなどご本人に不利のない支援を行った。	一人 92 件
2	・ 地域活動支援センター登録者、相談利用者から、事業活動や支援に対する意見を求め（アンケートや面談）、事業運営に反映していきます。	年 2 回以上	・ 年に 2 回にアンケートを実施した。地域活動支援センターの活動内容やオープンスペースの備品、生活支援センターみさとに期待することなどの設問をし、アンケート結果を踏まえて Wi-Fi 環境の整備や個別スペース設置を来年度予算案に計上した。	2 回アンケートを実施
3	・ 市町から委託された相談事業所として児玉郡市圏域の福祉課題への積極的な取り組みに参画する他、利用者へ直接サービスを提供する各事業所のファシリテーターとして、地域福祉サービス状況を定期的に確認します。  ・ 保健所、市町との連絡相談体制をより一層迅速かつ、具体的な連携が図れることを目的とした包括システムの構築を目指すため、市町関係機関と定期的な会議を開催し、情報共有を進めます。	協議会参加 毎月状況確認  市町会議参加	・ 自立支援協議会運営部会、および相談部会に参加。運営部会では議長職を務めた。相談支援体制の改善について、基幹相談事業所についてなど話し合いを進めた。また、地域の福祉サービス各事業所のサービス提供状況、利用状況について随時確認を行った。  ・ 市町、保健所との事例検討会に参加し、主に困難事例への対応について協議を行った。精神障害者にも対応した包括ケアシステムに基づいた第 1 回目の会議を、美里町で開催することができた。	自立支援協議会に参加 運営部会 隔月 相談部会 毎月  事例検討会参加 本庄市 毎月 上里町 隔月 神川町 隔月 美里町 1 回/3 ヶ月

令和3年度事業報告 美里敬愛ホーム

施設運営方針

1. 待機者ニーズに迅速に応え、空床期間がない安定経営を目指します。
2. 職員の介護負担軽減とスキルアップを目指し、ホスピタリティをもったサービスを提供します。
3. 新型コロナウイルス対策を実践し、新しい生活様式を取り入れたサービスを提供します。
4. 本館改築計画を推進します。

	重点実施事項	備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 待機者の現況、変化する希望を定期的を確認し、空床時は迅速に入所案内できるよう計画的に待機者管理を行います。</li> <li>・ 医療保健機関、居宅ケアマネージャー等への定期訪問や電話連絡にて、施設の取り組み、待機者状況等を連絡し入所希望者へ情報を繋ぎます。</li> </ul>	<p>空床1週間以内稼働率 95%</p> <p>毎月定期訪問待機登録者 80名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 待機者状況を他居宅介護支援事業所へ定期的に連絡し、入所受け入れ計画を作成。空床状況に合わせ、短期入所を活用しながら待機者管理を行った結果、目標稼働率には達しなかったが、前年より空床期間が少ない運営ができた。</li> <li>・ 居宅介護支援事業所、近隣病院を中心に41ヶ所の営業計画を作成し、順次訪問してパンフレット配布と、空床状況を連絡。電話連絡も並行して行い継続した営業活動を実施。</li> </ul>	<p>稼働率 90.6%</p> <p>4月初め 35名 3月末 47名</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護関連研修（体位交換、排泄ケア、喀痰吸引等）及び普通救命講習（心肺蘇生法、軌道異物除去法等）へ参加して自己研鑽と資質向上を図り、質の高いケアを提供します。</li> <li>・ 異動職員、新任職員を中心に配属時研修を行い、研修センターと連携してOJT（指導進捗一覧表）を活用した人材育成に取り組みます。</li> <li>・ 福祉用具の買替え、新規用具の導入を行い、介護事故リスクの軽減を図ります。</li> <li>・ 介護スタッフの負担軽減を図るため、介護ロボットや介護補助機器（ベッドセンサー、マッスルスーツ等）を導入します。</li> </ul>	<p>研修費 40万円</p> <p>用具約 80万円</p> <p>設備約 50万円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体拘束、脱水症管理の外部研修（Web）と普通救命講習に参加。受講者が施設内でフィードバックし、特に脱水症の研修の効果として水分提供方法の見直しが見直しができた。</li> <li>・ OJTトレーナーによる新任職員配属時研修、介護技術研修を実施。定期的な業務振り返り面談を行いながら育成に取り組んだ。新任は全員離職することなく、単独業務ができ、日々の業務の中で出てきた課題について継続的に取り組んでいる。</li> <li>・ 車椅子を買替し、安全な介助と転倒リスクの軽減を図った。（モジュール車椅子2台、ノンバック車椅子3台）また、褥瘡予防マットレスを買い替え、入床時の環境改善を行った。</li> <li>・ マッスルスーツの導入に向けてデモ機をレンタルし検証。着脱時間と手間、複雑な介護員の動きと連動しにくいことから導入を見送った。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族との面会が継続できるよう感染状況に合わせた方法で実施し、かつ安心できる新しいコミュニケーションツールを検討します。</li> <li>・ CO2濃度計を設置し、換気と加湿のバランスを保ち、感染症対策を強化します。（環境状態の見える化）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面会では事前予約で原則2名、15分以内とし、また、まん延防止等重点措置期間は面会自粛を要請する等、感染状況に応じた対応とした。新しいコミュニケーションツールとして、LINEを用いた写真送付や、文書による写真送付を検討したが、情報管理の観点から見送った。</li> <li>・ CO2濃度計を設置し、環境状態の見える化を図った。アラームにより換気のタイミングがわかり感染症対策に繋がっている。また、各居室に加湿器を設置し、湿度管理と定時消毒を併せて実施し感染症対策を強化した。</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改築計画書を期限内に提出する他、交付決定を想定した事前準備を進めます。</li> <li>・ 改築後の定員変更に対して円滑な運営ができるよう入所調整計画を進めます。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改築協議書を提出し補助金交付が決定。実施設計完成に向けた検討を継続中。</li> <li>・ 令和4年度中は満床維持を目指し、令和5年度から定員変更に対する入所調整を行う。</li> </ul>	

令和3年度事業報告 デイサービスセンター「けいあい」

施設運営方針

1. 在宅生活の継続支援のため、通所介護を必要とする幅広い利用者を受け入れます。
2. 感染症予防と安全な介護技術を実践し、安心できる環境とサービスを提供します。

重点実施事項	備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で通所介護を必要とする方の利用ニーズに応えるため、圏域にある居宅介護支援事業所に対し、空き状況を定期的に案内します。 また、医療保健機関等へ事業所 PR 活動を行います。</li> <li>・家族に向けた介護相談及び介護技術講習会等を行い、利用者が在宅で生活継続できるよう支援を行います。</li> <li>・幅広い利用者の受け入れを想定し、介護関連研修への参加、内部研修を開催して職員のスキルアップを図ります。</li> </ul>	<p>毎月 FAX 継続 HP に掲載 毎月 2 機関訪問</p> <p>講習年 3 回以上</p> <p>研修年 3 回以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットを刷新し、7 月より近隣の居宅支援事業所に訪問して順次配布。毎月上旬に空き情報の FAX を送信し、新規利用者の獲得に繋がった。</li> <li>・8 月から 12 月地域向け介護相談会を企画し開催。地域の方に周知するために圏域内の居宅支援事業所と美里町保健センター、社協や役場に介護相談会のパンフレットを設置。スーパー等にもポスターを掲示し PR 活動を行った。</li> <li>・感染症対策、虐待防止、緊急時対応（誤嚥、AED 使用等）研修を開催し職員のスキルアップを図った。</li> </ul>	<p>新規 32 名/年</p> <p>毎月 2 回実施 参加者 0 名</p>
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴支援用具を導入し、安全かつ自立維持を目標とした入浴支援を実施します。</li> <li>・基本的な感染症対策を確実に実施するとともに空間除菌機器等を導入し、利用者が安心して通える環境を整備します。</li> <li>・新しい生活様式を取り入れたイベントを立案し、安心と充実を感じていただける介護サービスを提供します。</li> </ul>	<p>用具 10 万円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャワーキャリー1 台購入し、入浴支援が安全に行える環境を整備した。</li> <li>・常時換気又は定時換気を実施するとともに、手すりや共有部分の消毒、利用者の帰宅後のホール内消毒を毎回実施。また、職員についてはアイシールドを着用して介助にあたる等、感染症対策を継続して実施した。 また、次亜塩素酸除菌噴霧器を設置。換気と加湿を同時に行い、ホール内の環境維持に努めた。</li> <li>・けいあいカフェを定期的で開催し、都道府県のご当地お菓子の提供と併せてご当地映像を観ながら旅行気分を味わえるイベントを提供。利用者がより楽しんでいただけるサービス内容を都度検討し実施した。</li> </ul>	

令和3年度事業報告 ヘルパーステーション「けいあい」

施設運営方針

1. 人権の尊重、尊厳を守り個人の生活を支えるサービスの提供を行います。
2. 安心安全な業務体制強化と情報・リスク管理体制の強化を行います。
3. 新規事業所エリアにおける登録者数の拡大を目指します。

	重点実施事項	備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期訪問や電話連絡にてサービス状況の事態把握を行い、サービス満足度の向上を図ります。</li> <li>・対面できる環境において、すべての担当者会議に出席し、利用者家族、関係機関との信頼関係を強化します。</li> <li>・新規支援管理ソフトを導入し、変更の多い支援内容に迅速に対応し、担当ヘルパーへの情報周知、徹底を行います。</li> </ul>	<p>毎月実施</p> <p>全会議</p> <p>ソフトウェア 230万円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により定期訪問は自粛。代替えとしてヘルパーがサービス訪問時に利用者の状況確認を細かく行い、責任者へ報告する手順とした。必要に応じて利用者宅への電話確認を実施し、サービスの向上に努めた。</li> <li>・開催計画されたサービス担当者会議にすべて参加。コロナ禍により開催されなかった会議も多々あったが、状況照会文書にて情報共有を図った。</li> <li>・藤岡エリアより新たなソフトウェアを導入し、ヘルパーへの情報周知・徹底を行った。埼玉エリアは準備が整い次第実施予定。</li> </ul>	<p>代替訪問・電話</p> <p>全て参加</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規支援管理ソフトにより、訪問スケジュールのデータ管理、訪問伝票のペーパーレスを実現し、業務効率化を推進します。</li> <li>・所轄警察の交通安全講習を受講し、交通事故数0件を目指します。</li> <li>・介護スキルの向上、介護福祉の理解、コンプライアンス遵守などの研修を開催し、スタッフ一人ひとりのキャリアアップを目指します。</li> <li>・感染症により訪問介護事業が途切れることのないよう、訪問先での感染症対策の徹底とスタッフ教育を目指します。</li> </ul>	<p>研修年1回</p> <p>2ヵ月1回以上</p> <p>随時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤岡エリアは訪問スケジュール管理やペーパーレスが実現し、業務の効率化を図った。埼玉エリアに関しては準備が整い次第、実施予定。</li> <li>・コロナ禍により所轄警察の講習は見送った。一方で今年度はヘルパーの業務中の交通事故が2件あり、その都度ヘルパーへメール配信にて注意喚起を行った。</li> <li>・コロナ禍により、集合研修は中止とした。代替えとして保健衛生、交通安全等の関連研修書類を作成しヘルパーへ配布。介護技術に不安のあるヘルパーへは介護人形を活用し介護技術の指導を行った。</li> <li>・感染防止意識の啓発メールを配信し、訪問時における注意点（熱発のある利用者に対するガウン等使用方法など）も定期的に連絡し感染症対策を図った。</li> </ul>	<p>交通事故2件</p> <p>集合研修は実施せず</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人事務局採用担当と連携し、定期就労説明会を開催し、登録者増員を図ります。</li> <li>・群馬県南部にある居宅介護支援事業所(ケアマネージャー)へ定期的に事業所PRを行い、顧客増員を図ります。</li> </ul>	<p>年5回以上</p> <p>毎月連絡</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に2回法人事務局にて採用説明会を開催。3名が採用して定着している。</li> <li>・14か所の居宅介護支援事業所から利用者29名の紹介を受けられた。</li> </ul>	<p>5名採用、3名定着</p>

令和3年度事業報告 居宅介護支援センター「けいあい」

施設運営方針

1. 地域に貢献する居宅介護支援事業所として多職種と連携したケアマネジメントを行います。
2. 安全業務体制および情報管理体制の強化と業務効率化を進めます。

重点実施事項		備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム※の一機関として多職種との連携強化に努め、介護を必要とされる方や地域に貢献できるよう制度的上限担当数を維持します。</li> <li>・美里町ケアマネージャー連絡協議会の事務局運営（任期は2年）、美里町・児玉圏域のイベント等に参加し、地域のケアマネ育成、福祉制度、介護保険などの相談活動を行い、地域福祉に貢献します。</li> </ul>	<p>ケアマネ一人 上限 38 件</p> <p>年 3 回以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所に定められた顧客上限数を保持しながら、事業所内情報共有を強化し 12 か月連続で実績目標を達成できた。</li> <li>・美里町ケアマネージャー連絡会は新型コロナウイルス感染拡大の影響から縮小や中止などの影響も受けたが、単身世帯への家庭用火災報知器の設置推進や訪問看護事業所との連携等の研修を行うことで、より質の高いマネジメント業務への取り組みができた。また、他事業所のケアマネージャー実務研修 1 名を受け入れ、地域ケアマネージャー育成に貢献できた。</li> </ul>	<p>年間目標値（2,334万円）達成</p> <p>連絡会 5 回実施 実習生 1 名受け入れ</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディカルケアステーション※（ネットを活用した関係機関との情報交換システム）を活用し、業務効率、情報ネットワークを構築します。また、会議や多職種の連携において ICT※の活用を行います。</li> <li>・所轄警察署の交通安全講習を受講して、交通事故率 0 を目指す。</li> <li>・利用者本人や同居家族の新型コロナウイルス感染時においても、必要な介護サービスが継続的に提供できるよう、状況把握方法、事業所間連携、行政連絡など緊急時体制を構築します。</li> </ul>	<p>年 1 回以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活様式からもメディカルケアステーションの活用が充実した 1 年であった。特に連携が取りにくい医療関係専門職との情報交換や一部のご家族との情報共有について対面する機会を設けなくてもスムーズに行えた。</li> <li>・感染対策から警察署講習会については見送ったが、事業所内で安全運転に対する意識を高めた結果、交通事故 0 件であった。また 5 月に新車を増車したことも安全運転の意識向上につながったと考える。</li> <li>・利用者自身や同居家族の感染が確認された事例もあったが、感染対策の徹底や早期情報共有対応したことから、利用者がサービス中止になり生活に支障を来すような事例はなかった。また事業所職員自身も感染することなく業務を遂行することができた。</li> </ul>	<p>MCS の活用から連携が強化された</p> <p>新車（キャロル）導入（100 万）</p> <p>職員感染なし</p>

※1 地域包括システムとは

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供される体制のことです。

※2 メディカルケアステーションとは

病院、クリニック、薬局、介護施設などで働く医療介護者の多職種連携や患者・家族とのコミュニケーションツールとして、地域の医療介護の現場でご利用いただいている完全非公開型医療介護専用 SNS です。

※3 ICT とは

ICT とは、「Information and Communication Technology」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを意味します。ICT を活用したシステムやサービスが普及することで、社会インフラとして新たなイノベーションを生むことが期待されています。

令和3年度事業報告 フードクリエイイト事業

施設運営方針

1. 安定した給食が提供できる運営基盤の再構築を行います。
2. 食種構成の見直しを図り、多様な食事形態に計画的に対応します。

重点実施事項	備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンパワーの変化に影響の少ない新調理システム※の実用化に向けた準備を行い、合理性と安全性、計画生産性を備えたフードサービス事業を目指します。</li> <li>・クックチル※製造工程の再整備を行い、衛生管理及び安定した味付け等、クオリティの向上を目指します。</li> <li>・感染症発生、災害時等、食事提供が途切れぬよう各事業所の環境、設備に合わせたBCP（事業継続計画）、マニュアルを整備します。</li> <li>・人材育成、定着支援を図るため、OJT（職場内教育）体制を強化し、調理及び栄養課の専門性を高めます。</li> <li>・厨房設備の老朽化に伴い、計画的に入れ替えができるよう積立を開始します。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新調理システム「ニュークックチル」における機器、設備情報の収集を厨房機器業者、メーカーから取得。現状の厨房内環境、施設環境、設備も踏まえ検討を開始した。厨房機器メーカー各企業による展示会、ニュークックチル実用化に向けたセミナーへの参加により情報収集を積極的に実施している。</li> <li>・製造工程における管理基準の再構築として、データ化により具体的なマニュアル整備を実施した。令和4年1月より運用、随時データの収集、更新を行って行く。</li> <li>・フードクリエイイト事業におけるBCPの策定を実施。12月より運用を開始。各施設環境、設備の把握からマニュアル整備を随時更新している。</li> <li>・調理課において未経験の契約職員の配置を開始。調理師資格取得を目標とし育成。また、感染症及び食中毒予防の啓発研修を全職員対象に実施した。</li> <li>・老朽化、修復歴、耐用年数等から入れ替えの優先順位を立てている。大型食器洗浄機の入替は共同募金会へ承認が下りたため、次年度交換予定。</li> </ul>	<p>展示会・セミナー 11/24 出席者3名 11/26 出席者3名</p> <p>契約職員1名採用 研修年3回実施</p> <p>3年度積立500万円</p>
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・療養食、形態食（ムース食、凍結含浸法）の専門的技術の習得と、計画的な導入を目指します。</li> <li>・障害施設、高齢者施設の特質に合わせた食事種類、摂取量等の見直しを行い、かつ、全利用者の栄養マネジメント（身体状況、栄養値などの評価）に対応した給食を提供します。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムース食提供に向けた取り組みスケジュールを基に提供再開を行っている。 4月 研修会実施 5・6月 ムース食調理技術習得 7・8月 " 体制検討 9・10月 " 提供利用者の検討/試食会 11・12月 提供開始最終調整 1月 提供開始（モニタリング実施） ※美里敬愛ホーム利用者32名へ提供。 2月 評価</li> <li>・毎月の給食会議にて利用者状況、施設環境、設備に応じた食事提供を検討し対応を行った。利用者個々の対応についてはサービス担当者会議、栄養ケア計画をもとに個別対応を随時実施している。</li> </ul>	<p>外部講師による 講義・実習を実施 (4/9・4/23)</p> <p>ムース食提供利用者 食事会10~12月実施</p>

※1 新調理システムとは、「真空調理法」や「クックチル」「ニュークックチル」といった調理法・保存法を取り入れた新しい調理法です。調理工程を数値による高度なマニュアル化と、それを活かす電化厨房機器の優れた制御性により、おいしさの均一化や作業効率の改善、マンパワーコストの低減、高い安全性の確保などに効果を発揮します。飲食業が抱えるコスト削減や衛生管理の徹底といった課題を解決する調理法として、近年さまざまな現場で注目を集めています。

※2 クックチルとは、食材を調理したのち、急速冷却して保存しておき、タイミングに合わせて再加熱して提供する新調理システムの一つです。

令和3年度事業報告 法人事務局

施設運営方針

1. 新型コロナウイルス対策の情報整理と各施設の支援
2. 人材確保の推進、育成、定着支援体制の充実を図り、福祉人材の専門性を高めます。
3. 特別養護老人ホームの改築計画の推進（計画書提出）
4. 法改正に対する各施設の事業運営支援と生産活動の中・長期目標の再設定

	重点実施事項	備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域感染情報、国県の指示方針など、常に変化する情報を集約し、迅速な情報発信、各事業所との円滑な意思疎通を図り、情報や物品調達の支援を行います。</li> </ul>	随時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国県からの通知を管理者と共有し、月2回の経営会議にて情報を整理。ワクチンは保健センターと医療機関と調整し3回接種の機会が提供できた。一方で2月下旬からみさと西館においてクラスターが発生。約3週間の隔離体制となったが、衛生資材を事前に備蓄しておいたため、不足はなかった。また、クラスター時は法人一体となり、各施設から応援体制を構築し対応にあたることができたため、外部機関への人的要請は行わなかった。</li> </ul>	西館コロナ 利用者41名 職員19名が罹患
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県、群馬県を中心とした学校への定期訪問を継続かつ充実させ、若手人材の定期採用に繋がります。</li> <li>・各施設のOJT（職場内教育）担当者と研修センターが連携し、人材育成、定着支援体制の充実を図り、福祉人材の専門性を高めます。</li> <li>・職員配置の適正化による年次有給休暇の取得数増加と職員処遇面を維持、改善を目指します。</li> </ul>	約30校  入所4施設  年休消化率60% 賞与月数維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用説明会への参加および自己開催を107回実施。これにより4年度は21名が採用できた。</li> <li>・各施設OJT体制により、4月の新採用24名中、1名の離職にとどまった。引き続き、各事業所と研修センターの連携を継続し、定着に繋がりたい。</li> <li>・賞与月数5.1ヶ月を維持できた。また年次有給休暇は事業所ごとで差はあるが、法人平均10.5日を取得できている。一方、配置職員が多く必要な事業所では退職に伴う採用難等の影響を受けやすく、取得しにくい課題がある。</li> </ul>	新任21名採用 約60校と連絡  離職1名  法人全体65%
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県へ提出する工事計画に必要な手続きを履行し、計画書を期限内に提出する他、交付決定を想定した事前準備を進めていきます。</li> </ul>	7月計画書提出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月末に補助金協議書を北部福祉事務所へ提出。事業計画・補助金について承認され、申請額どおり交付決定を受けた。今後請負業者の選定と契約を進める。</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改正年度である障害者総合支援法、介護保険法の改正内容に対して、地域や利用ニーズに沿った事業運営となるよう迅速に対応していきます。</li> <li>・現在各施設で取り組んでいる生産活動（農産事業活動）を法人の特色にしていくよう、農産事業のビジョンを再設定します。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・改正対象は法人経営に影響がある内容はなく前年度同様の経営が進められた。3年度中に4年度の処遇改善加算率の変更（職員の処遇向上支援策）が発表されたため、次年度に対応を引き継ぐ。</li> <li>・令和4年度組織体制で「ノウフクプロジェクト（農産事業の推進）」を組織化。プロジェクトの事業計画を策定し、農業、加工を利用者活動に繋げる事業を強化していく。</li> </ul>	

令和3年度事業報告 介護員養成研修事業

施設運営方針

1. 質の高い介護・福祉サービスを提供するため、実践的な知識と技術の習得を目指します。
2. 法人内職員の介護福祉士受験資格取得に繋がる学習支援を行います。
3. 法人外公募も行い、地域福祉の発展に貢献します。

重点実施事項		備考 (予算・頻度等)	実施報告	結果 (執行額・頻度等)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みさと福祉カレッジ介護学科（初任者研修コース）全講義日数 19 日間</li> <li>令和3年4月～5月（短期コース） 月・水・金 8:30～17:10</li> <li>令和3年10月～2月（週1コース） 毎週 水 8:30～17:10</li> </ul>	回数 2回 定員 32名 定員 32名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年4月～5月（短期コース）は新任職員研修の一環として未経験契約職員の他、資格を有する新卒職員も受講。予定通りの日程で20名が修了（内、一般受講者1名）。</li> <li>・令和3年10月～2月（週一コース）は4名が受講。予定通りの日程で4名が修了（内、一般受講生1名）。</li> <li>なお、週一コースの一般受講生は、3月1日より当法人の登録ヘルパーとして採用。</li> </ul>	修了者 20名  修了者 4名  一般受講者 1名 採用
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みさと福祉カレッジ介護学科（実務者研修コース）通学日数 27 日間</li> <li>令和3年4月15日～令和3年12月16日の木曜日 8:30～16:50</li> </ul>	回数 1回 定員 20名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務者研修9名が受講。予定通りの日程で9名が修了。</li> </ul>	修了者 9名
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みさと福祉カレッジ受講者の介護福祉士国家資格受験合格率 90%を目指します。</li> </ul>	90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度 介護福祉士国家資格受験者 17名</li> <li>その内、希望者に対して7月より介護福祉士受験対策研修をシリーズで開催し16名が参加。結果14名が合格。</li> <li>合格率内訳 : 美里会職員 17名中、14名合格 (82.3%)</li> <li>: 受講対策研修参加者 16名中、14名合格 (87.5%)</li> <li>: 3年度実務者研修修了者 9名中、9名合格 (100.0%) (みさと福祉カレッジ受講者)</li> </ul>	100%